

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学 校 名	静岡東高等学校	校 長 名	鈴木 伸彦
------	----	-------	---------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

評価はA、B、C、Dの4段階

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	授業改善と学力向上	教員の授業参観 年3回以上 100%	休校等の影響もあり、1学期から2学期までの全教員の平均した回数は0.58回であった。	C	様々な先生方の授業を参観しやすくするため、今年度から「授業参観期間」を設けたので、この期間をさらに活用していきたい。	研修
		「授業を通して学力や技能の向上が実感できた」と答える生徒の割合 全科目で70%以上	授業アンケートを集計した結果、各学年の全ての科目で目標の70%以上を達成することができた。	A	例年とは異なり、定期テスト実施前の調査となったことも影響したと思われる。成果目標を表現する文言についても検討したい。	
		教員の教科指導セミナー参加者 人数 5人以上	駿台予備校や河合塾等が主催するセミナーに、国語で3名、地歴で1名、英語で1名が参加した。	A	オンラインによる講座を活用し、実施した。	
		教員による先進校訪問 4人以上	本年度は実施できなかった。	-		
		1・2年家庭学習時間 平日1日 平均2時間以上	1年の平日の学習時間の平均は1.6時間、2年は1.7時間であった。	C	長期的な目標の下、持続的に学習ができる生活習慣を身につけさせたい。2年では、クラス間の差もある。3年受験期に向けての改善が必要である。	学年
		1・2年11月進研模試偏差値平均 55以上	1年は、国語54.5、数学57.1、英語55.1で国数英総合56.5であった。2年は、文系5教科総合56.6、理系5教科総合52.であった。	B	1年は、数学と英語は7月よりもアップしたが、国語が若干ダウンした。継続的な学習により、安定した成績が出せるようにさせたい。2年では、理系3教科になると54.8まで上がるので、理系の国・社に対する意識を高める必要がある。	
		大学入学共通テスト平均点 全国平均+5%以上	文系は全国平均543.0に対して564.7、理系は全国548.5に対して550.8であった。文系は+4%、理系は+0.4%であり、目標に達しなかった。	C	理系に対する指導の工夫が必要である。	進路
		3年予備校DVD講座参加者数 30人程度	DVD講座の参加者数は30人であった。	A	昨年度から週2回の実施にし、継続性が良くなった。	
		学習支援プラットフォーム(Classi)の学習指導への活用	休校中にClassiを使つての課題配信などを行った。Google Classroomを利用することが多くなり、Classiについては限定的な活用にとどまった。	C	Classiは通信状況が悪く活用しきれなかった。本年度は休校期間の生徒への連絡にも使われたが、Google Classroomでの使用が多く、今後はプラットフォームとしてどちらを使っていくのかも検討が必要である。	教務

様式第3号

		東陵セミナーにおける探究的学習プログラムの充実とパフォーマンス評価の開発	1年では、職業人インタビュー・プレゼンテーション、SDGsについてのポスター制作・ポスターセッションを行った。2年では、SDGsの希望ゴール別に編成したチームで、課題を設定し考察を進め、年度末にはポスターセッションを行った。	B	計画的に行い、パフォーマンス評価まで行ったが、探究学習を「深める」プログラムまでの充実ができず、調べ学習に終わり、アクションを起こすまでできなかった。各種行事との関連付け、時間数の確保など課題である。	探究
		3年間を見通した進路指導計画の確立	3年間の進路指導計画を作成し、進路資料「滯標」に示した。	B	総合的な探究の時間での指導との関連の調整をしながら計画をしていきたい。	進路
		eポートフォリオによる活動履歴蓄積の推進	Classiのポートフォリオ機能への記録を推進、東陵セミナーでの活動を活動履歴として残している。3年では、調査書記載事項の確認に利用するべく内容を整理した。	A	調査書記載事項との連携を円滑に行えるような整理の仕方を検討したい。	進路
		新教育課程の確立	教育課程検討委員会で検討し、新教育課程を作成した。	A	大学入試における共通テスト利用科目を見据えながら、継続して教育課程を検討していく必要がある。	教務
イ	志の育成と進路目標への挑戦	キャリア講演会・大学模擬授業生徒満足度 各90%以上	キャリア講演会の生徒満足度は66%、大学模擬授業の満足度は92%であった。	B	キャリア講演会は、講師には学年別に2回の講演をお願いした。実施できたことを評価したい。	進路
		大学訪問 生徒各自の目標達成率 100%	本年度は実施できなかった。	-		
		東大訪問参加者数 満足度 90%以上	本年度は実施できなかった。	-		
		大学入学共通テスト5教科型受験率 80%以上	311人中245人が受験し、受験率は78.8%であった。	B	引き続き、進路指導の充実を図る。	
		ハイレベル模試受験者数 学年各30人以上	2年のハイレベル模試受験者数は29人であった。	B	担任からも声掛けを行い、学力の高い生徒が受験した。	
		国公立大学現役合格者数 卒業生の50%程度	314人中121人の合格で、割合は38.5%であった。	C	受検者数も少なく、国公立大学に目を向けられなかった。	
		難関国公立大学(※4)合格者数10人以上	難関国公立大学合格者数は8人であった。	B	引き続き、難関国公立大学を目指す生徒の指導と育成を行う。	
		県内国公立大学合格者数 50人以上	県内国公立大学の合格者数は44人であった。	B	県内大学希望者は例年より多く、同格者も多く出た。	
		難関私立大学(※5)合格者数 90人以上	難関私立大学の合格者数は87人であった。	B	生徒の進路希望に沿った受験校決定と指導を継続して行う。	
		「専門教養講座」の単位取得生徒数 10人以上	本年度は実施できなかった。	-		教務
		生徒個人面談回数 5回以上	休校期間があったため、面接週間は4回しか設定できなかったが、3年生は、大学決定シート作成に向けての面談を行い、一人5、6回以上行った。	B	個人面談により、生徒の個人的な悩みの多くをキャッチでき、相談に乗ることができた。面談の時間の確保が難しい。	学年

様式第3号

		静岡大学実験実習講座参加者数 20人以上、満足度 90%以上	本年度は実施できなかった。	-		*2
		修学旅行生徒満足度 各コース 90%以上	台湾コースは中止となり、2泊3日の行程に短縮し、全員で九州へ行った。満足度は 92.4%であった。	A	行動に様々な制約があったが、実施できたこと自体が良かった。	2年
		各種留学プログラムやスピーチコンテスト、外部プレゼン大会に参加する生徒 20人以上	3年生1名が静岡県主催のプログラムコンテストに参加し、入賞した。また、全英連英作文コンテスト参加に2名、「せかい部×SDGs 探究」高校生レポーターに1名が参加した。 内湖高校とのオンライン交流に35名が参加した。	A	意欲ある生徒たちの積極的な取り組みが見られた。オンラインで行った内湖高校との交流により、英語で文化交流やSDGsに関するディスカッションを行い、生徒の満足度が高かった。ディスカッションテーマの精選、技術面や器材の充実が課題である。	探究・英語
		留学生交流会の実施	1年生で国際こぼ学院と協力し、日本在住の留学生の母国のプレゼンテーションをクラスごとで聞いた。	A	活発な質疑も行い、他国の文化を知ることができたとともに、国際交流の機会を得ることができた。	交流
		エンパワメントプログラム 参加者数 30人以上 満足度 90%以上	参加者は18人であった。感染症の心配のため、参加を見合わせる生徒がいた。満足度は100%であった。	B	4校合同開催した。海外大学生や留学生の招へいに制約があった中で開催できたことを評価したい。	進路
		英語外部検定 CEFR B1 レベル 80人以上、A2 レベル 500人以上	GTEC Advanced による達成状況は、CEFR B1 以上 67人、CEFR A2 以上 763人であった。	B	95%の生徒がA2レベル以上に到達しているが、B1レベルの人数は目標に届かなかった。4技能をバランスよく身につけ、上位層の力を伸ばす指導と、A1レベルにとどまっている生徒の力をつける指導を考えていきたい。	英語
ウ	自主自律の精神と豊かな人間性の育成	遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	1日の遅刻者数は平均 4.85人であった。	A	遅刻者数は、前年度より減少している。	教務
		東陵祭生徒満足度 80%	本年度は実施できなかった。	-		生徒
		「自ら進んで挨拶をしている」と答える生徒 90%	アンケート調査の結果、81.3%の生徒が自ら進んで挨拶をしていると答えた。	B	校風委員会や応援団を中心とした挨拶運動を継続したい。	
		各部活動の目標達成率 80%	多くの大会や演奏会などが中止となってしまった。	-		
		最終下校時間 19:30の遵守	各部活動において、時間を守って下校した。	A	部室等の利用状況にも注意しながら、早めの帰宅を今後も継続して促していきたい。	学年
		「高校生活指導プログラム」による系統的な初期指導とクラス目標づくりの実施	新入生オリエンテーションなどは中止せざるを得なかったが、計画を変更しながらもできる部分は実施した。	B	効果的な日課の設定、実施時期、生徒提出書類等の検討を継続して行う。	
		情報モラル講座の実施	1、2年生を対象とし、本年度は学年別に2回に分けて実施した。	A	リモートの講座ではなく、実際に講師を招き実施を計画したい。	
		情報モラル関連の生徒指導 0件	SNS上でのトラブルなどの事案は無かった。	A	県教委実施のネットパトロールにおいても本校に関する報告も減少しており、良好な状態である。	生徒

様式第3号

エ		文化教室 生徒満足度 80%以上	本年度は実施できなかった。	-		図書
		ビブリオバトルの実施	教員のデモンストレーションをリモートで行う等、工夫して実施することができた。生徒の取り組みも良好であった。	B	東高スタイルが定着してきたと思われるので、今後も実施していきたい。	
		図書館の貸出本冊数 5,000 冊以上	図書の貸出数は、11,727 冊であった。	A	来年度も選書・広報の充実をはかり、魅力的な図書館としたい。	
	命を守る教育の推進	重大な生徒交通事故件数 0 件	事故報告件数 13 件の報告があったが、重大事故は無かった。	A	例年より事故件数も減少。講習会や交通安全委員会を中心とした事故防止策を今後も継続していきたい。	生徒
		保健便りによる健康指導回数 15 回以上	保健便りを 35 回発行した。感染症対策を中心に記事をまとめた。	A	学校ホームページおよび Classi による配信を中心とし、ペーパーレス化を実行できた。	保健
		集団を対象とした保健教育の回数 3 回以上	6 月に外部講師を招いて熱中症対策講座を、11 月に養護教諭が参加し、保健授業（性感染症）を実施した。	B	感染症対策と集団を対象とした保健教育実施の両立を検討したい。	
		グループエンカウンター（1 年生）の実施	本年度は実施できなかった。	-		教育相談
		セラ・プラスの実施と活用 全学年	登校再開後ひと月後に実施することができた。配慮の必要な生徒を把握し、情報共有した。	A	別に「健康アンケート」を実施し、配慮の必要な生徒、悩みを抱える生徒を把握し、職員全体に情報提供した。	
		1 分間カウンセリング（1 年生）の実施	登校再開後ひと月後に実施した。	A	Google クラスルームを使い、事前にアンケートを実施し、その結果を見て生徒の話を聞くことができた。	
		地域防災訓練への生徒参加率 80%以上	実施しない自治会が多かった。地域防災訓練への参加率は 12.8%であった。	-	不参加者の防災レポートは全員提出した。	
		一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	4 月の避難訓練が未実施のため実施できなかったが、	-	休校等の緊急メール配信や Google Classroom による毎日の検温返信などメール確認訓練にかえることができた。	総務
オ	広報活動の充実と教育環境の整	土曜公開授業の参加者数 計 1,600 人以上	申込者数では 1906 人、実参加者としては 1628 人となり、目標は達成できた。	A	人数や回数を制限したなかで目標を達成できた。申し込み方式の改善（個人ネット申し込みへ変更）が奏功した。参加日当日の無断キャンセルが増えていることが課題。	教務
		土曜公開授業外部評価 満足度 90%以上	満足・まあ満足の割合は 88.7%で昨年度よりも 3.4%程度向上した。	B	アクティブラーニングをもっとやるべき、生徒の反応のなさ等の感想も見られたので改善をしたい。	
		土曜公開授業での校内美化点検の実施	公開日朝の美化委員会の点検活動と部活動ボランティアによる清掃活動を行った。	B	生徒会本部の生徒が部活動の清掃分担場所を割り振り、中学生を迎えるにあたり多くの生徒が清掃に携わった。	保健
		HPのタイムリーな情報発信と週 2 回以上の更新	その日の出来事を、なるべくその日のうちに配信するようにした。平均週 3 回以上の配信ができた。	A	引き続きタイムリーな記事を発信することに取り組む。魅力ある記事にするために、写真や文章にも工夫したい。	情報

様式第3号

	備	H P における各部活動の活動報告 学期1回以上	各部活動の担当者が直接記事を書き込めるようにした。	A	ウェブデザインを再構築し、新情報や重要な情報がわかりやすいH P のデザインを工夫したい。	事務（保健）
		事務室窓口へのクレーム件数 0 件	行政業務及び事務系校務に係る窓口へのクレームはなかった。	A	電話でのクレームに対して、事務職員内及び関係教職員との情報共有並びに相互理解を図った。	
		月1回の安全点検の実施	月1回の事務担当による目視点検、毎日の技能員開錠・施錠時見回り及び教職員の安全点検を実施した。	A	早期の施設不具合把握が実施できたことにより、老朽化した施設設備が多い中、維持管理を円滑に実施できた。	
		ごみ処理費前年比減	対前年度比可燃ごみ処理量を82%に削減した。	A	保健課との連携によるごみの分別に取り組み、学校全体としてごみに対する意識の持ち方が変化した。	
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	1, 2 年生徒アンケートの結果、80.3%の生徒が、いると回答した。	A	日頃の授業や面談を通して、信頼関係を築くことができています。	管理職
		学年主任連絡会の実施 3 回以上	学期末の成績ヒア時、教育相談連絡会議に集まった以外では、連絡会としては実施しなかった。	C	連絡会として定期的を実施することは難しかったがさまざまな会議で3主任が集まる機会は多かった。	
		一分掌一業務改善の実施	感染症拡大防止の観点から、分掌主催の各事業についてその都度、実施形態、内容の見直しを行った。	B	各分掌において事業の必要性の検討を継続し、必要に応じて行事の廃止や実施形態の変更を行っていききたい。	分掌
		校務分掌・部活動の統廃合による校務の整理	校務分掌の見直し、部活動の休廃止の見直しを行い、次年度体制の整理を行った。	A	継続して、校務の整理を行う。	管理職
		学習支援プラットフォーム (Classi) のアンケート機能を活用した校務の効率化	学習支援プラットフォームはClassi よりも Google に引き継がれ、Google フォームを使って行われるようになった。毎日の健康調査を始め、有効に活用されている。	A	Classi の機能と Google の機能の比較検討を行い、より効果的、効率的なプラットフォームを活用したい。	情報

※1：教育課程検討委員会 ※2：理系高大連携推進委員会 ※3：いじめ防止対策委員会

※4：北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京工業、一橋、神戸、医学部医学科

※5：早稲田、慶応、上智、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館